

【H30 年度】放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果

公表：令和元年 6 月 18 日

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス フェイス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や工夫している点を踏まえた 改善内容または改善目標
環境 ／ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			定員に対するスペースは充分だが、複数の児童の休息のための間仕切り等が必要。
	②	職員の配置数は適切である	○			指導員加配に加え、学生やシニアのボランティアも継続的に参加している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		●		指導訓練室内はバリアフリーである。設備品や配置の安全・衛生に十分配慮する。
業務 改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			全ての従業員に対して人事考課制度を導入し、半期毎に評価している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			H27(2015)年度から保護者アンケートを実施している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			http://workcreche.org/faith/info.html
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			●	外部評価を受ける予定はないが、常に利用者や地域の出入りや意見を受け入れる。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			月 1 回以上の研修を実施している。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
適切 な 支 援 の 提 供	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			児発管と主任指導員が中心となってプログラムを立案・推進している。保育士・児童指導員が引き継いでいる。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			個人の目標や特性や希望をもとに集団のテーマを設定し、天候や参加人数を考慮した上で、月毎・週間、日々のプログラムを実践中。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			自由遊びや諸々の生活時間を含めて、観察と直接支援をおこなっている。

⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			留意点を繰り返し確認するなど、内容や項目を充実させ、かつ記録している。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			ICT ツールを活用し、翌日までに全員への情報伝達と記録・報告を共有している。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し支援の検証・改善につなげている	○			同 上

	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者と主任児童指導員、管理者が参画している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			事前・事後の予定変更の確認や遅延の可能性も含めて、積極的にコンタクトをとっており、保護者・学校からの理解と協力を得ている。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			●	医療従事者との連絡は十分とは言えないので、本人・保護者合意の下、改めていきたい。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			今年度の利用開始に向け、訪問・懇談・連絡の機会をつくった。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				H30年度対象者無し
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			府の主催する研修に参加した。他部門において、保育所等訪問事業所の訪問支援員からの助言を受け学ぶことができた。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			当事業開設の目的のひとつであり、他部門事業との地域連携の効果は大きい。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			管理者が障害児通所専門部会の代表として参画している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳、メールを始めとして、送迎時の懇談や電話相談を日常的に行っている。
㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の	○			特別なメソッドの提供はしていないが、懇談の他、保護者向けの講座を実施または案	

		支援を行っている				内している。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			児童を中心にした対等な関係を保ち、喜怒哀楽を共にしつつ、心配ごとをいつでも相談してもらえる態勢を続けていきたい。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			個々の家庭への対応と、保護者との信頼関係構築に注力しながら、保護者交流会や親子参加の企画を実施している。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情につながる前に、こちらから希望や意見を尋ねている。必要な際は至急に対応し、説明責任を果たしていく。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			法人の会報に事業報告等を掲載している。また、毎月メールとブログで左記についてのお知らせを定期的に配信している。
	③⑮	個人情報に十分注意している	○			
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			必要に応じて、文字の大きさやルビ、伝達の方法に配慮し、確認している。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			当法人他部門事業への参加を中心に交流している。夏まつりや地域のイベントにも積極的に参加している。
非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		●		周知すると共に、様々な状況を想定した実践的訓練を重ねていく。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			ケガの応急処置等も含め、児童の対応力を養うため繰り返しの実施が必要である。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			虐待防止委員会主催の全体研修を実施した。他法人の主催する研修や講演に参加した。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			通所開始時や契約更新の懇談の際に、子どもと保護者の双方に説明している。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		●		十分留意しているが、保護者の指示によるものだった。現在は自然寛解している。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			記録・報告は ICT ツールを活用し、全従業員に周知、再発防止を徹底している。

○・はい = 黒字 ●・どちらともいえない = 青字 ●・いいえ = 赤字